

<p style="text-align: center;">Devotion Guide/ユースマナ</p> <h1 style="text-align: center;">Youth Manna</h1> <p>マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。</p>	<p style="text-align: center;">2022/10/10(月) エゼキエル21:1-17</p> <p>3節と7節を読もう。 ●7節の最後に「今、それが来る。それは実現する」とあるけど、何が実現するのか？</p> <p>昨日の箇所20:49をもう一度読もう。 ●どうして人々はエゼキエルの預言を「単なる例え」だと言ったと思う？</p> <p>●みことばが語られているのに真剣に聞いていない人がいる。それでも神様のことばは必ず実現する。実際にバビロン捕囚という形で主の剣は振り下ろされた。君は礼拝やデボーションをどんな気持ちで聞いているのかな？</p>	<p style="text-align: center;">2022/10/11(火) エゼキエル21:18-32</p> <p>二度に及んだバビロンの侵攻にもかかわらず、エルサレムの町と神殿は守られていた。しかし、ここでもう一度「バビロンの王の剣」が来るという神様のことばが告げらる。</p> <p>まだ破局は来ないと偽りの安心に浸っていたエルサレムの民に対する神様のことばはとてつもないものだった。神様が裁くとき、人々の罪は明らかにされ、神様の正しさが現される。神様のことばを軽んじ、的を外した悪の道から方向を変えることをしないエルサレムに対し、神様は語り続けられたんだ。</p> <p>イエスを信じたあなたは、神様の前に罪赦され、深く愛されている存在だ。しかし神様が罪を憎まれることは忘れてはいけません。今神様が自分の心のどこに触れてくださっているかを思いを巡らそう。神様に聞き従うことを具体的に決断して歩み出そう！</p>	<p style="text-align: center;">2022/10/12(水) エゼキエル22:1-16</p> <p>「聖なる都」と呼ばれたエルサレムが、ここでは主ご自身から「流血の都」と呼ばれるようになってきている。どうしてこのようなことになってしまったのか。主は二つの原因を挙げておられる。一つは、自らのただ中で血を流したこと。もう一つは、自らのために偶像を造ったことである。そのためにエルサレムは「国々のそしりの的」となった。彼らは主を忘れてしまった。</p> <p>13章からはさばきが宣告される。エルサレムが主を忘れ、周辺諸国と同じように利得と偶像礼拝に歩むとき、エルサレムは「自身によって汚される」。</p> <p>私たちの歩みが、神様の光で照らされたものとなるように祈ろう！</p>
<p style="text-align: center;">2022/10/13(木) エゼキエル22:17-31</p> <p>18節。「イスラエルの家はわたしにとって金かすとなった」 →炉の中で金属の純度が増し、より良いものとなるはずが、金かす(金属を溶かしたときに出る不純物)となってしまったという神様の嘆きである。</p> <p>30節。「破れ口に立つものを彼らの間に探し求めたが、見つからなかった」 →破れ口とは、城攻めなどで、打ち壊された城壁の穴の開いた場所で、敵と味方が入り乱れて争う戦闘の中心のことをさす。</p> <p>聖書には時々、調べなければ分からないようなことばが出てくるけれど、それをそのままにせず、神様の思いを理解するためにも知っていこう。</p> <p>今神様があなたに、教会に求めていることはなんだろうか？ どのような時も愛を示そう！</p>	<p style="text-align: center;">2022/10/14(金) エゼキエル23:1-27</p> <p>▶ここに出てくるオホラとオホリバという姉妹は、姉のオホラが北イスラエルの首都サマリアを、妹のオホリバが南ユダ王国の首都エルサレムを表している。2つの国はサウルからソロモンの時代まで、1つの王国であった。</p> <p>▶小さい国が大国と同盟関係を結ぶことは、現代においても当たり前だ。しかし、信仰の現場では当たり前ではない。神は、信仰の民であったイスラエルが神の力よりも大国の力に頼ろうとしたことを叱り、その不信仰の罪をさばられる。</p> <p>▶学校やネットで当たり前とされていることでも、信仰によって歩みたい。</p>	<p style="text-align: center;">2022/10/15(土) エゼキエル23:28-49</p> <p>エルサレムへの裁きについて、語られ続けているね。エゼキエルの時代は北イスラエルがアッシリアによってもう滅んでいて、南ユダ王国はバビロンに潰されそうになりつつエジプトに頼ってなんとかしようと思っていた。だけど、本当に頼るべき神様に目を向けず、罪を重ね続けている先に解決はなかったんだ。宣告されていた通り、最終的にバビロンの手にかかってしまうことを私たちは歴史として知っているね。</p> <p>彼らはどうして罪を悔い改めることができなかつたんだろう？ 私たちのうちにもなかなかやめられない罪はあるかな？思い巡らそう。</p>	<p style="text-align: center;">2022/10/16(日) エゼキエル24章</p> <p>神様はエゼキエルに死者のためにうめけと命じられた。イスラエルの民たちはそのことがなぜなのかわからなかったが、エゼキエルがイスラエルの民のしるしとなり、「わたしが神、主であることを知る」と語られている。</p> <p>私たちが神様が自分の主であることを知る時にはどんな時があるかな？また、自分の中で神様を主とすることのできない領域はないかな？ 静まって考えてみよう。</p>